

令和5年度 第1学期終業式 校長式辞

皆さんと初めて会った4月10日から、今日が101日目です。1学期の間、北条高校生徒の皆さんの素直さ、誠実さ、すばらしさに、何度も感心したり感謝したりしました。と同時に、「もっと自信のある顔していいのに」「もっと自分をそのまま表現してもいいのに」とも度々思いました。

経験が自信になる、経験が自信を生む、と言われますが、同じ経験をして、それが自信につながる場合と、単なる記憶にとどまる場合があります。何が違うのでしょうか。私は、経験の意味を考える、意味付けをするということを、するかしらないかなのだと思います。

経験したことの意味を考え、今ある知識や別の経験との関係を考え、次の経験の場面を想像して準備する。これが、経験を意味づけるということです。それを通して、経験はその人の自信になります。生徒の皆さんには、自分自身の経験の意味をしっかりと考えて、自信につなげる人になってほしいと思います。

そして、経験の意味付けは、自分に対してだけではなく、他の人に対して贈り届けることもできます。それが、応援です。西条ひうち球場で、応援リーダーや吹奏楽部の仲間とともに、野球部の仲間を応援しました。あの経験には、多くの確かな意味があったと思います。そして、皆さん一人一人の自信につながり、北条高校の自信につながるものだったと思っています。

1学期が終わります。5週間余りの夏休みに、様々な経験をするでしょう。生徒の皆さん一人一人が自分の経験にしっかりと意味付けをし、自信を付けて2学期を迎えることを願い、式辞とします。

令和5年7月20日 愛媛県立北条高等学校長 渡邊 俊